# 2016調査用紙記入分類表

1 病院の種類
- 1 大学病院
- 2 国立病院機構・ 国立医療センター
- 3 公立, 自治体病院
- 4 その他の総合病院
- 5 その他の病院
- 6 小児病院・医療センター(国立を含む)

2 病院の所在
- a 北海道
- b 東北
- c 関東・甲信越(東京を除く)
- d 東京
- e 東海・北陸
- f 関西
- g 中国・四国
- h 九州

3 年齢区分
- A ～1カ月 (0歳0ヶ月0日～0歳0ヶ月30日)
- B ～12カ月 (0歳1ヶ月0日～0歳11ヶ月30日)
- C ～5歳 (1歳0ヶ月0日～5歳11ヶ月30日)
- D ～18歳 (6歳0ヶ月0日～18歳11ヶ月30日)
- E ～65歳 (19歳0ヶ月0日～65歳11ヶ月30日)
- F ～85歳 (66歳0ヶ月0日～85歳11ヶ月30日)
- G 86歳～ (86歳0ヶ月0日以上)

4 性
- M 男性
- F 女性

5 ASA PS
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 1E
- 2E
- 3E
- 4E
- 5E
- 6E

注: 6, 6Eは臓器摘出を受ける脳死患者

6 手術部位(手術部位を必ず2連の記号で選ぶこと. 例:a-1)
- a 脳神経・脳血管
  - 2 開頭
  - 3 穿頭
  - 4 血行再建
  - 5 血管内手術
- b 胸腔・縦隔
  - 2 非内視鏡手術
  - 3 内視鏡手術
  - 4 経皮的手術
- c 心臓・血管
  - 1 A-C Bypass (on pump)
  - 2 A-C Bypass (off pump)
  - 3 先天性心疾患 (根治術)
  - 4 先天性心疾患 (姑息手術)
  - 8 先天性心疾患 (血管内手術)
  - 9 弁膜症
  - 14 その他の心臓手術
  - 10 胸部大動脈瘤(11を除く)
  - 11 胸部大動脈瘤(血管内手術)
  - 12 腹部大動脈瘤(13を除く)
  - 13 腹部大動脈瘤(血管内手術)
  - 15 大血管以外の動脈
- d 胸腔＋腹部
  - 1 非内視鏡手術
  - 2 内視鏡手術
  - 3 経皮的手術
- e 上腹部内臓
  - 1 非内視鏡手術
  - 2 内視鏡手術
  - 3 経皮的手術
  - 4 血管内手術
- f 下腹部内臓
  - 1 非内視鏡手術
  - 2 内視鏡手術
  - 3 経尿道・膣的手術
  - 4 血管内手術
- g 帝王切開
  - 1 全例
- h 頭頸部・咽喉頭
  - 1 全例
- k 胸壁・腹壁・会陰
  - 1 全例
- m 脊椎
  - 2 非内視鏡手術
  - 3 内視鏡手術
- n 股関節・四肢
  - 2 骨・関節
  - 3 末梢静脈
  - 4 その他
- p 検査
  - 1 手術室内
  - 2 手術室外
- x その他
  - 1 全例

7 体位
- 1 仰臥位
- 2 腹臥位
- 3 側臥位
- 4 切石位
- 5 坐位
- 6 その他

注: ビーチチェア体位は循環への影響度を考慮して坐位ないし仰臥位に分類する.

8 麻酔法
- A 全身麻酔(吸入)
- B 全身麻酔(TIVA)
- C 全身麻酔(吸入)＋硬・脊. 伝麻
- D 全身麻酔(TIVA)＋硬・脊. 伝麻
- E 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)
- F 硬膜外麻酔
- G 脊髄くも膜下麻酔
- H 伝達麻酔
- X その他

注: 亜酸化窒素を併用した症例はTIVAに入れず, 吸入麻酔のいずれかの項に入れる.

9 偶発症の種類(偶発症の種類1つを必ず2連の記号で選ぶこと. 例:A-a)

注: 「高度低血圧」,「高度低酸素血症」,「高度不整脈」とは「心停止を覚悟した」あるいは「意識障害, 心筋障害等の後遺症を覚悟した」, 転帰予測のつかない低血圧, 低酸素症, 不整脈とする.「その他の危機的偶発症」はこれに準じた危機的偶発症とする.

- A 危機的偶発症
  - a 心停止
  - b 高度低血圧
  - c 高度低酸素血症
  - d 高度不整脈
  - x その他の危機的偶発症
- B 神経系偶発症(脳・脊髄)
  - a 脳血管障害
  - b 脳浮腫
  - c 脊髄損傷
  - x その他
- C その他の神経系偶発症
  - a 眼窩上神経
  - b 顔面神経
  - c 反回神経
  - d 頚神経根
  - e 胸神経根
  - f 腰神経根
  - g 仙骨神経根
  - h 馬尾神経
  - k 腕神経叢
  - m 橈骨神経
  - n 正中神経
  - q 尺骨神経
  - s 筋皮神経
  - t 坐骨神経
  - u 大腿神経
  - v 総腓骨神経
  - w 前脛骨神経
  - A 後脛骨神経
  - B 伏在神経
  - D 外側大腿皮神経
  - E 陰部神経
  - F 閉鎖神経
  - G 視神経
  - H 外転神経
  - J 聴神経
  - x その他

注: 複数にまたがる場合は最も傷害の強い神経を選択する

- D その他
  - x その他

(注:「D.その他」には、危機的ないし神経系偶発症ではないが、記録すべきと判断される偶発症をご記入下さい)

10 偶発症発症の時期
- 1 手術開始前
- 2 手術中
- 3 手術終了後

11 防止の可能性
- Y yes
- N no

12 転帰
- a 後遺症無し
- b 術中死亡
- c 術当日～術後7日以内死亡
- d 術後8～30日以内死亡
- e 植物状態移行
- f 中枢神経障害残存
- g 末梢神経障害残存
- h その他の後遺症
- x 記録不明

注:転帰は30日後に判定する.

13 偶発症の主原因(主原因1つを必ず3連の記号で選択すること. 例:A-1-a)

A 麻酔管理が原因
- 1 ヒューマンファクター
  - a 主麻酔薬過量投与
  - b 高位脊髄くも膜下麻酔
  - c 局所麻酔薬中毒
  - d 薬物投与(過量・選択不適切)
  - e アンプル・注射器の間違い
  - f ガス流量設定エラー
  - g 換気不適切
  - h 導入時気道確保操作不適切
  - k 維持中の気道管理不適切
  - m 誤嚥
  - n 不適合輸血
  - q 輸液・輸血管理の不適切
  - s 血管内カテーテル穿刺・挿入不適切
  - t 硬・脊麻穿刺不適切
  - u 体位・機械的圧迫
  - v その他の医原性
  - x その他
- 2 接続の外れ・接続不適切
  - a 麻酔回路・呼吸回路
  - b ガス供給源
  - c 動静脈ライン
  - x その他
- 3 機器の整備・点検不備
  - a 麻酔器(本体)
  - b ベンチレータ(本体)
  - c 呼吸回路
  - d 気道確保用具(チューブ等)
  - e モニター
  - f レーザー光線傷害
  - g マクロ・ミクロショック
  - h その他
- 4 その他
  - a 局所麻酔薬神経毒性
  - x その他

B 術中発症の病態が原因
- 1 全例
  - a 急性冠症候群
  - b 心不全
  - c 重症不整脈
  - d 肺水腫・肺出血
  - e 気管支喘息
  - f 気胸
  - g 肺塞栓
  - h 中枢神経系障害
  - k アナフィラキシーショック
  - m 悪性高熱
  - n DIC
  - q 電解質異常
  - x その他

C 術前合併症が原因
- 1 出血性ショック
  - a 大動脈瘤破裂
  - b 外傷
  - c 消化管出血
  - d 産科的出血
  - e 術後再出血
  - f 血液凝固障害
  - x その他
- 2 循環器系
  - a 心筋梗塞・冠虚血
  - b 弁疾患
  - c 心筋症
  - d 心不全
  - e 先天性心疾患
  - x その他
- 3 呼吸器系
  - a 気管支喘息
  - b ARDS
  - c COLD
  - d 肺炎
  - e 胸水
  - f 気胸
  - g 気道狭窄
  - x その他
- 4 中枢神経系
  - a 頭蓋内出血
  - b 脳梗塞
  - c 脳浮腫
  - x その他
- 5 多臓器不全・敗血症
  - y 全例
- 6 代謝内分泌疾患
  - a 甲状腺疾患
  - b 副腎疾患
  - c 高度肥満
  - x その他
- 7 骨筋肉疾患
  - y 全例
- 8 出血・凝固異常
  - y 全例
- 9 その他
  - y 全例

D 手術が原因
- 1 大出血
  - y 全例
- 2 手術手技
  - a 術野使用薬品(含:骨セメント)
  - b 器材の不備
  - c 内視鏡下手術操作(含:CO2が原因)
  - d 内視鏡以外の手術操作
  - x その他
- 3 人工心肺
  - a ポンプトラブル
  - b 離脱不能
  - x その他
- 9 その他
  - y 全例

E その他
- 9 その他
  - y 全例

14 偶発症の成因

偶発症の主原因として「麻酔管理が原因」を選択した場合のみ, 下記の各項の関与の度合いについて0～4のいずれか1つを選択

- 4 高度に関与
- 3 かなり関与
- 2 ある程度関与
- 1 わずかに関与
- 0 関与無し

| | |
|---|---|
| a 術前評価不十分 | ( 4 3 2 1 0 ) |
| b 知識不足 | ( 4 3 2 1 0 ) |
| c 技術不足 | ( 4 3 2 1 0 ) |
| d 状況判断の遅れ | ( 4 3 2 1 0 ) |
| e コミュニケーション不足 | ( 4 3 2 1 0 ) |
| f 看視不十分 | ( 4 3 2 1 0 ) |
| g 過重労働 | ( 4 3 2 1 0 ) |
| h マンパワー不足 | ( 4 3 2 1 0 ) |
| x その他 | ( 4 3 2 1 0 ) |